

みおしえ学習会 【八つのほこりを学ぼう】

問1) 次の□に文字を入れ、「八つのほこり」についての文章を完成させましょう。

ほこり・・・おいしい、ほ□□、にくい、か□□、うらみ、は□□□、よく、こ□□□
 ほこりとは、□□□の思召おぼしめしに沿わない、自□□心の心遣いのこと。

問2) 次の文章の□に、下から漢字を選んで入れ、文章を完成させましょう。

おいしいとは、□の働き、□の働きを惜しみ、税金など納めるべき物を出し惜しみ、世のため、道のため、人のためにすべき相応の務めを欠き、借りたる物を返すのを惜しみ、□な事は人にさせて、自分は□をしたいという心。すべて、天理にかな適わぬ出し惜しみ、□惜しみの心遣いはほこりであります。

【 心 体 身 好 嫌 苦 楽 骨 】

ほしいとは、心も尽くさず、身も働かずして、金銭を欲しがり、不相応に良き物を着たがり、食べたがり、また、あるが上にも欲しがるような心。何事もたんのうの心を治めるのが肝心であります。

問3) 「たんのう」の心とは、こういった意味でしょう。

読み合わせ)

にくいとは、自分のためを思って言ってくれる人に、かえって気を悪くして反感を持ち、あるいは、自分の気に入らない、しゃく癪に障ると人を毛嫌いし、陰口を言って、そしり笑うような心。また、銘々の身勝手から夫婦、親子など身内同士が、いがみ合うのもほこりであります。

問4) 次の□に同じひらがな2文字を入れ、文章を完成させましょう。

かわいとは、□□身さえ良ければ、人はどうでもよいという心。□□子を甘やかして食べ物、着る物の好き嫌いを言わし、仕込むべき事も仕込まず、間違っ事も意見せず、気ままにさせておくのは、よろしくありません。また、□□身を思って、人を悪く言うのもほこり。□□身□□子が可愛ければ、人の事も思い、人の子も可愛がらねばなりません。

問5) あなたは、「にくい」と「かわい」のほこりのどちらを積みやすいですか？また、それは、どんなシチュエーションでしょうか？

【にくい・かわい】

問6) 次の□に漢字1文字を入れ、文章を完成させましょう。

うらみとは、顔をつぶされたとして□を恨み、望みを妨げられたとして□を恨み、誰がどう言ったとして□を恨み、根に持ち、めいめい銘々、知恵・力の足りないことや、徳のない事を思わず、□を恨むのはほこりであります。□を恨む前に、わが身を省みることが大切であります。

はらだちとは、腹が立つのは気ままからであります。心が澄まぬからであります。人が悪いことを言ったとして腹を立て、誰がどうしたとして腹を立て、自分の主張を通し、相手の言い分に耳を貸そうとしないから、腹が立つのであります。これからは腹を立てず、**天の理を立てる**ようにするがよろしい。短気や癩癪かんしゃくは、自分の徳を落とすだけでなく、命を損なうことがあります。

よくとは、人より多く身に付けたい、何が何でも取れるだけ取りたいという心。人の目を盗んで数量をごまかし、人の物を取り込み、あるいは、無理な儲けを図り、^{ぼうり}暴利をむさぼる。何によらず、^{あた}値を出さずわがものにするは強欲。また、色情に^{おぼ}溺れるのは色欲であります。

問7) 欲と言っても、ほこりになるものもあれば、反対にほこりにならないものもあります。例えば、どんな欲がほこりにならないと思いますか？具体的に書いてみましょう。

【「ほこり」にならない欲】

読み合わせ)

こうまんとは、A（思い上がってうぬぼれ、^い威張り）、B（^{とみ}富や地位をかさに着て、人を見下し、踏みつけにする）ような心。また、C（目上に^こ媚び、弱い者をいじめ）、あるいは、D（頭の良いのを鼻にかけて、人を^{あなど}侮り）、E（知ったかぶりし、人の欠点ばかり探す）、これはこうまんのほこりであります。

問8) 上の文章のA～Eで、あなたの周りの人で、思い当たるこうまんはありますか？またそれは、どんな場面でしたか？出来るだけ具体的に書いてください。

問9) 「八つのほこり」の中で自分が積みやすい「ほこり」はどれでしょう。また、それはどんな時ですか？自分を振り返って考えてみましょう。

【積みやすい「ほこり」】

【「ほこり」を積みやすい時】

読み合わせ)

◆ささいな「ほこり」の心遣いも積もり重なると、ついには十分な御守護を頂けなくなります。そこで、親神様の教えをほうきとして、絶えず胸の掃除に努めるとともに、人には「ほこり」を積まさぬよう心を配らねばなりません。

問10) 「教えをほうきとして、胸の掃除をする」とは、どの様にすることだと思いませんか？

振り返り) 今日の学習で一番心に残った言葉や事柄は何ですか？また、今後何を心掛けていきたいと思いませんか？

◆人間の身体は、^{からだ}親神様からの「かりもの」で、心だけが自分のものであります。身体をはじめ、身の周りの一切は銘々の^{めいめい}心通りに御守護下さいます。